

阿蘇市の概要



阿蘇市

阿蘇市は、熊本県の北東部、阿蘇地域のほぼ中央に位置しており、熊本県と大分県の県境を有し、大分の2市を含めて8つの市町村と隣接しています。市域は東西約30km、南北約17kmで、面積は376.30平方kmとなります。

地形は、阿蘇五岳を中心とする世界最大級のカルデラや広大な草原を有し、比較的平坦地の多い阿蘇谷とそれを取り巻く阿蘇外輪地域で形成されています。市の大部分が阿蘇くじゅう国立公園内にあり、野焼きに代表される人と自然の共生によって守られてきた広大な草原や、オオルリシジミをはじめとする阿蘇特有の希少動植物など豊富な自然と様々な地域資源に恵まれています。

気候は、年平均気温約13℃、年間降水量約3000mmで、四季を通じて比較的冷涼で多雨な地域です。

産業は、平坦地での稲作や園芸作物、山間地での高冷地野菜づくりを主とした農業と雄大な自然景観や阿蘇神社をはじめとする歴史遺産を活かした観光が主となります。

700万本のソバの花

交通

阿蘇市の交通網は、東西に横断するJR豊肥本線と、それに並行して走る国道57号、南北を縦断し大分県日田市と結ぶ国道212号、大分県別府市と結ぶ主要地方道別府一の宮線(通称やまなみハイウェイ)、南阿蘇地域と結ぶ国道265号が主要道路となっています。主要都市までの交通アクセスは、熊本市中心部まで約50km、福岡市中心部まで約145km、大分市中心部まで約75km、阿蘇くまもと空港は約35kmとなります。

JR豊肥本線は、熊本地震で肥後大津く阿蘇間で不通となり、JRによる代替バスが運行されています。

豊肥本線に沿う形で走る国道57号は、震災により被害の出た現道復旧と北側ルートの開設、滝室坂トンネルの新設と大きな変化の中にあります。いずれのルートも大分県や熊本市内へのアクセスを良好なものとするため、本市の交通状況に大きく影響を与える事業となります。

道路及び鉄道などの交通インフラは、市民の生活に経済面を含めたさまざまな部分で影響を与えます。一日も早い復旧が望まれます。

人口

平成27年国勢調査による人口は、27,018人で、平成22年の28,444人から約1,500減少しています。昭和30年をピークに迎えて以降、転出者が転入者を上回る社会減、出生数が死亡を上回る自然減の両面から、人口減少が進んでいます。

世帯数は人口の減少に反して増加しているため、1世帯当たりの人口は減少を続けており、世帯の小規模化が進んでいます。

年齢層別構成

0〜14歳の年少人口が3,239人、15〜64歳の生産年齢人口が14,143人、65歳以上の老年人口が9,633人です。平成7年と27年を比較すると、平成7年と27年を比較すると、高齢化率は13.3%の増加、生産年齢人口は8.5%の減少となつています。中でも高齢化率は熊本県や全国の結果より高く、少子高齢化が著しく進んでいることがわかります。

産業別構成

産業別就業者は、平成27年国勢調査では、第1次産業が2,402人、第2次産業が2,987人、第3次産業が8,080人となつています。

本市は、熊本県や全国よりも第1次産業の従事者の割合が高く進んでいます。また、人口減に伴い各産業の就業者数は、減少を続けています。

阿蘇市の歴史

- 平成17年 一の宮町、阿蘇町、波野村が合併して「阿蘇市」誕生
- ASO田園空間博物館総合案内所が落成
- 阿蘇インターネット放送局開局
- 波野中学校新校舎が落成
- 汚泥処理再生センター(赤水完成)阿蘇神社が国の重要文化財に指定
- ASO環境共生基金設立
- 東部森林基幹林道開通
- 第31回全国育樹祭が阿蘇市「阿蘇みんの森」で開催
- 阿蘇市内を横断する幹線道路整備に着手
- 内牧支所が新築・移転
- 道の駅「阿蘇」開駅
- 阿蘇地域が日本ジオパークに認定
- 平成21年 阿蘇駅前ロータリー完成
- 平成22年 阿蘇西ふれあい市場
- 「あかみず」オープン
- 阿蘇インターネット光運用開始
- 第1回大阿蘇火の山まつり開催
- 第1回大阿蘇元気ウオーク開催
- 九州北部豪雨
- 阿蘇中学校開校
- 阿蘇地域が世界農業遺産に認定
- 阿蘇小学校開校
- 火の国阿蘇の恵みのブランド「然」発信開始
- 阿蘇医療センター開院
- 阿蘇地域が世界ジオパーク認定
- 阿蘇市誕生10周年記念式典
- 阿蘇草原保全センター開館
- 阿蘇中岳噴火(噴火警戒レベル3)
- 一の宮小学校開校
- 熊本地震
- 阿蘇中岳噴火(噴火警戒レベル3)
- 国道57号北側ルート二重峠トンネル着工
- ASO田園空間博物館
- ディスプレイ農山漁村の宝
- グランプリ獲得
- 国道57号滝室坂トンネル着工
- 平成30年
- 平成29年
- 平成28年
- 平成27年
- 平成26年
- 平成25年
- 平成24年
- 平成23年
- 平成22年
- 平成21年
- 平成20年
- 平成19年
- 平成18年
- 平成17年



平成25年に発信を開始した市民ブランド「然」